

主体的・対話的に深く学ぶ「話すこと（やり取り）」の指導と評価の在り方
～楽しく話し、確実に話せるようになる！「即興性」を意識した言語活動と授業展開～

十島村立悪石島中学校 教諭 大渡 昌幸

【推薦のポイント】

- 本論文は、多くの生徒が苦手意識をもっている「話すこと（やり取り）」に焦点を当て、具体的な授業の進め方を明らかにすることで、この現代的な課題の解決を目指した価値ある論文です。
- 特に、研究構想を構造的に4点の取組に整理したこと、理論をもとに授業構成を工夫改善したこと、学習指導要領に示された（やり取り）の言語活動を明確にしていること、授業のゴールから遡って作る授業展開など、研究の筋が通っています。その上で様々な活動を仕組み、評価・考察・改善・実践を蓄積し続けることで、結果として生徒の半数が英語検定における高校卒業程度の資格を取得するという成果にまで結びついていることが、よく分かります。

目 次

1	研究主題設定の理由	1
2	研究のねらい	1
3	研究の方向性と継続性	2
	(1) 「楽しく話し、確実に話せるようになる」ための「話すこと [やり取り]」の改善・充実	
	(2) 目指すゴールの姿から授業展開を作成して共有する	
	(3) CEFRと個別最適な学びの実践を兼ね備えた「Can-Doリスト」を生徒と作成して共有する	
	(4) 言語材料の系統性を生かした場面設定を生徒と考える	
	(5) 活動と評価を生徒と共有する	
4	研究の実際	5
	(1) 活動1：Keyword inputとSmall Talk	
	(2) 活動2：Keyword inputとSkit (Role play)	
	(3) 活動3：パフォーマンス評価	
5	研究の分析と考察	8
	(1) 即興で「話す力 [やり取り]」が高まったかを「話す内容」から分析した結果及び考察	
	(2) 英語アンケートによる分析と考察	
6	研究のまとめ	10
	(1) 研究の成果	
	(2) 研究の課題	
	(3) 終わりに	
○	引用・参考文献	10

1 研究主題設定の理由

(1) 社会情勢から

令和3(2021)年度から全面実施となった中学校学習指導要領では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を明確にした上で、「外国語を使って何ができるようになるか」という視点から小学校・中学校・高校と一貫した聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの5領域ごとに目標が示されている。そして、考えや気持ち等を伝え合う対話的な言語活動を一層重視する観点から、「話すこと[やり取り]」の領域が設定された。その領域における目標を達成するための重要な条件として「即興で」が掲げられている。「即興で伝え合う」とは、不適切な間を置かずに相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。やり取りを行う際は、相手の発話に応じることが重要であり、聞き手が理解しやすいように、限られた時間で話す内容をまとめたり、それに関連した質問や意見を述べたりして対話を継続・発展させることである。

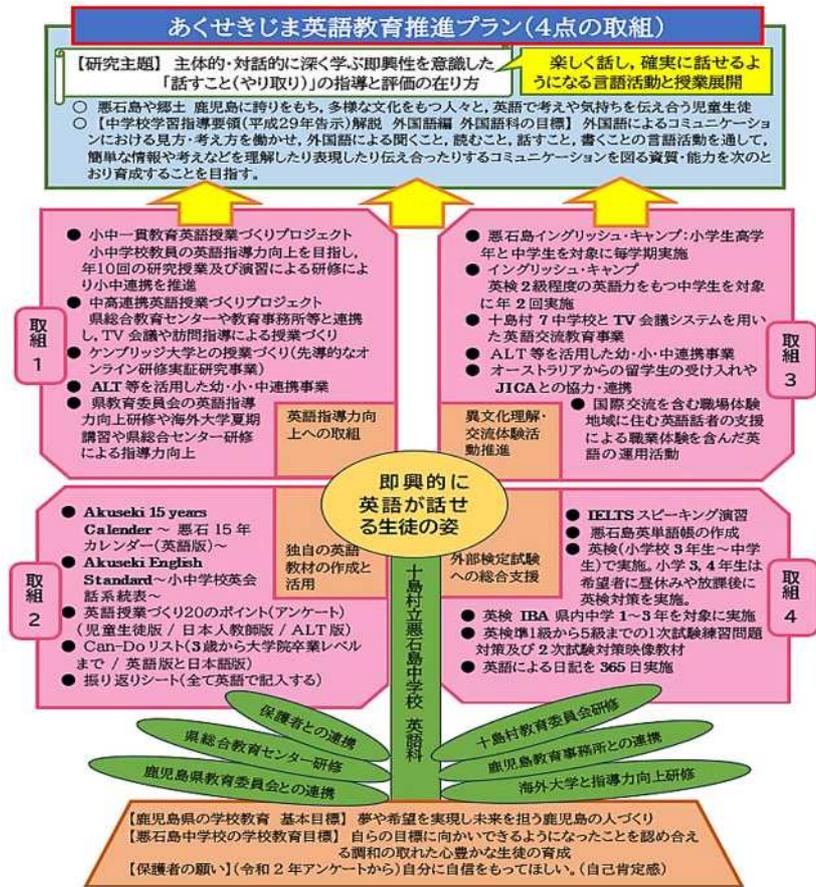
また、文部科学省は、外国語学習・教授・評価の抜本的強化として、ヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages; 以下CEFR)を参考にCan-Doリストを作成し、活用することで、4技能・5領域のコミュニケーションを図る資質・能力別の目標を設定し、総合的に育成することを推奨している。上山晋平(2018)は「スピーキングは読み、書き、聞く能力を支えている抜能だ。(中略)スピーキングを重点的に指導することによって、他の技能の力も自然と身についてくる」と述べている。このことから、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちを適切に表現したり、伝え合ったりすることができる生徒の育成に向け、話すことの言語活動を十分に行うことが必要である。そこで、「話すこと[やり取り]」の領域における「即興性」を高める授業づくりに取り組むことにした。

(2) 本校の教育目標から

本校の学校教育目標は、「自らの目標に向かい、できるようになったことを認め合える調和の取れた心豊かな生徒の育成」であり、また、「やさしく・かしこく・たくましく」という校訓をもとに、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指して日々の教育活動に取り組んでいる(図1)。これは、他者や自分自身にも積極的に働きかけ、目の前にある課題を解決していこうとする自己実現を図っていく生きる力を意味し、本主題である「主体的・対話的で深い学び」の充実を図り、話すこと[やり取り]の実現を図る授業改善は、その根幹を支える重要なものであると考える。

2 研究のねらい

英語科の「主体的・対話的に深く学ぶ」授業づくりにおいて、即興性を意識した「話すこと(やり取り)」の指導と評価に視点を当てた授業改善に取り組むことによって、生徒は楽しく話し、確実に話せるようになるだろう。



【図1 研究構想図】

3 研究の方向性と継続性

(1) 「楽しく話し、確実に話せるようになる」ための「話すこと[やり取り]」の改善・充実

言語活動の充実について、山田誠志(2018)は、「伝え合う内容があってこそその英語の授業」として、コミュニケーションを行うための本来の目的に沿った授業づくりを提案している。自分自身の授業を客観的に評価してもらい、改善・充実を図るため、授業の様子を動画に撮影し、ケンブリッジ大学と連携・協力した授業研究を通して、「話すこと[やり取り]」における Small Talk と Skit(Role play)の言語活動について課題点と改善策を探った(図2)。

Small Talk とは、「既習表現を繰り返し使用できるようにして、その定着を図ること」と、「対話の続け方を指導すること」の2点をねらいとした活動であり、小学校外国語科で使用されている教材でも見られる言語活動である。今までは、授業始めの帯活動として文部科学省からも示されている、計画的・系統的な取り組み

を Small Talk に取り入れて実施してきた。工夫として、会話を継続させる手立てとして挨拶や確認のための繰り返し、相づち等を段階に応じて取り入れる工夫をしてきた。

東仁美(2003)は、Skit と Role play について、「Skit」は、satirical(風刺性)が高く、ユーモアがあり、生徒が教師のいくつかの指示や条件に沿って、場面や登場人物、ストーリーを自分たちで決めて、事前練習をしてから、小道具などを用い演じる活動である。それに対し、Role play は、役割カードによって、場面や登場人物、話の筋書きがある程度決まっており、生徒が即興で対話を考えながら、それぞれ役を演じる活動である。それゆえ、即興的な対話形式の Role play に比べ、Skit は登場人物の性格やストーリー展開がはっきりしており、生徒にとっても見る側にとっても面白い、としている。どちらも、ペアやグループで演じながら表現を習得することができる活動である。即興で会話の展開やつながりを意識したセリフを考え、練習して覚え、発表することにより、自然な会話のやり取りを身に付けるのに効果的であると考えられる。これまで、Small Talk で身に付けた会話を継続させるスキルを定着させる手立てとして活用したり、教科書本文の場面設定を活用した発表を行ったりしていた。発表を行うことで、他ペアや他グループのやり取りに刺激を受け、英語表現を多くインプットできる場面と考え、授業づくりに取り入れていた(図3)。

本研究では、学習指導要領解説の「話すこと[やり取り]」の言語活動アに焦点を当て、やり取りを「相手からの質問に対し、即興的に適切な応答をしたり、関連する質問をしたりして互いに会話を継続する活動」と位置付け、会話を継続・発展させる授業展開を図る。

あくせきしま英語教育推進 取組1		
ケンブリッジ大学と連携した授業づくり事業		
研究授業・授業研究を通しての学び		
「楽しく話し、確実に話せるようになる」ための改善点		
課題	● 活動の振り返りとしてのフィードバックが不十分ではないか?	改善案 「話すこと(やり取り)」の振り返りの工夫 ○ 表現の違いに気付くことで習得へのステップアップできると良い。 ○ 話すこと(やり取り)の活動後に、クラス全体で振り返りを共有し、修正していけると良い。
課題	● 活動を通してのそれぞれ生徒の成果を示してあげられると良いのではないか?	改善案 「Can-Doリスト」と「CEFR」の活用 ○ 目に見える成果を示すことで、次回への意欲につながると良い。 ○ 50分の授業を通して、「使える英語表現」が増えていることを認識することができることと自己肯定感が上がり、学習意欲の高まりにもつながる。成長の様子を示せると良い。
課題	● 「即興で話す」ためには、言語知識が必要であるが表現したい知識が不足しているのではないか?	改善案 「話すこと(やり取り)」の段階的指導の工夫 ○ 即興で話せるようになるための過程として、「キーワード・インプット」の時間を設定すると良い。 ○ 主体的・対話的で深い学びを実践するにも有効な手段となる。
即興性を意識した「話すこと(やり取り)」の指導と評価の改善へ		

【図2 ケンブリッジ大学との研修により挙げた課題】

学習指導要領解説の話すこと[やり取り]の言語活動	
(3)話すこと[やり取り]	
ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。	
やり取りを行う際は、相手の発話に応じることが重要であり、それに関連した質問や意見を述べたりして、互いに協力して対話を継続・発展させなければならない。	
関心のある事柄	スポーツ、音楽、映画、テレビ番組、学校行事、休日の計画、日常の出来事など、身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていることを扱うこととしている。
簡単な語句や文を用いて	小学校での学習やこれまでの経験の中で触れてきた語彙や表現を含め、中学校で扱う語句や文を用いること
即興で伝え合う	話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な時間を置かずに関心と事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。やり取りを行う際は、相手の発話に応じることが重要であり、それに関連した質問や意見を述べたりして、互いに協力して対話を継続・発展させなければならない。
留意点	小学校の外国語科の「話すこと[やり取り]」の目標には「その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする」という内容が含まれており、「その場で」について、「小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編」では、「相手とのやり取りの際、それまでの学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりすることができるようになることを指している」とした上で、「ここでのやり取りが、中学校の外国語科での簡単な語句や文を用いて即興で話すことへとつながっていく」と中学校への接続に言及している。

【図3 学習指導要領における話すこと[やり取り]】

(4) 言語材料の系統表を生かした場面設定を生徒と考える

言語活動においては、生徒が興味・関心をもって取り組むことのできる工夫が大切である。学習指導要領解説では、関心のある事柄として「スポーツ、音楽、映画、テレビ番組、学校行事、休日の計画、日常の出来事など身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていること」を扱うと示している。さらに、「ペア・ワークやグループ・ワークを行う際は、お互いに興味・関心をもって話し合い、相互理解を深められるような題材や活動の工夫」が求められている。

そこで生徒に扱う題材やテーマやトピック等についてアンケートを実施したところ、8つの場面(日常生活、紹介、買い物、食事、電話での応答、旅行、道案内、郷土の紹介)が挙げられた。そこで、生徒が実際に自分の考えや気持ちを伝えたい内容になっているか、コミュニケーションを通して自分の考えを深め、友人の意見を聞いて、更に新たな気付きが生まれるような題材になって

あくせきじま英語教育推進 取組2
～3歳(早期英語教育)から大学院レベルまでのカリキュラム～

場面	1 日常生活	2 紹介	3 買い物	4 食事
挨拶	Good night. / Excuse me. / You're welcome. / How are you? / What's up? / What's wrong? / I'm good, thank you. / And you? / Thank you. / It's OK. / Nice to meet you. / Nice to meet you, too.	自己 I'm from ○○. / I live in Akusekijima. / It's in the south of Kagoshima. / I like to- ing! / I can't / can't ○○. / Please call me ○○. / This is my family.	案内 I'm looking for ○○. / I'm just looking. / This is your change. / How about this one? / Do you have anything a little cheaper? / It's too expensive.	注文 Two...and two... please. / Large or small? / Large one, please. / For here or to go? / To go. / Here you are. / May I have seconds. / How much is it? / That's...yen, please.
休調	What day is it today? / It's Friday. / What's the date today? / It's March 10. / How is the weather? / It's sunny. / How do you feel now? / I have a headache. / Take care. / What's the matter? / How do you feel now?	家族 She (He) is my ○○. / Her (His) name is ○○. / She (He) is ○○ years old. / She (He) lives in ○○. / She (He) is good at ○○. / She (He) likes ○○. / I have [watch/g] to play! ○○.	値段 What size(color) are you looking for? / Something dark/light. / I like the color. / It's too big [small] for me. / It looks nice. / It looks too large (big /small). / Shall I show you a smaller/bigger/larger one? / Do you have a bigger/smaller one? / I'll take it. / May I try this on? / Do you have one in red?	店員 Please help yourself. / Would you like some more? / Yes, please. / It's delicious. / No, thank you. / I'm full. / What would you like to drink? / May I have some ○○? / Of course. / Would you like another piece of cake? / Could you pass me... please? / That looks delicious. / That smells good. / I'm sorry, I can't eat ○○. /
日付		日常	サイズ	感想
天気			購入	新しい方
休調			試着	好み
紹介	This is my friend. / She(He) is friendly. / Hello. / This is ○○. / May I speak to ○○. / Just a minute.	夢 I want to be a ○○. / What is your hobby? / My hobby is playing tennis. / How about you? / My hobby is playing the piano. / I like music the best. /	値段 How much is it? / It's ○○ yen. / You're welcome. / Do you want to go to a bookstore? / What time shall we meet? / Two o'clock at the station.	選ぶ Which foods do you like the best? / I like pizza the best. / How about you?
電話		趣味	誘う	
休調	Hello, everyone. / I'm hungry [sleepy / happy / sad / thirsty / tired / full / hot / cold / great]. / See you again.	家族 I have brothers. / How many brothers do you have? / I have no brother. / I have one sister. / Do you have any pets? / I have a dog and some birds.	探す I want ○○. / Where is the ○○? / Go straight. (back) / Turn right(left). / Small (Medium / Large) size, please.	時刻 I have breakfast at 7:30. / I'm hungry. / Let's go to the restaurant. / May I help you? / Chicken, please.
小6			サイズ	
小4				

【図6 「話すこと(やり取り)」の場面設定を生徒と作成】

いるかを一目で確認できるカリキュラムシートを作成した。言語材料としては、幼稚園教育要領解説と小中高の学習指導要領を研究し、3歳から15歳まで早期英語教育でも活用できる場面設定とした。この取組により、生徒の成績や生徒の特性、発達段階に配慮した、誰一人取り残すことのない言語活動につなげることに繋がった(図6)。

(5) 活動と評価を生徒と共有する

学習指導要領の三つの柱に関する外国語の目標をもとに、即興性を意識した「話すこと[やり取り]」について、コミュニケーションのポイントとその具体的な内容を生徒と共有した。これは単元末のスピーキングテストに向けて、英語で即興的にやり取りする力がバランスよく向上することと、コミュニケーションのポイントをCan-Doリストと関連させて提示することにより、生徒の学びの動機付けの継続性と、即興的に英語でやり取りする力を向上させるために協働性を必要とする意識付けのための取組である(図7)。

あくせきじま英語教育推進 取組2			
即興性を意識した「話すこと(やり取り)」の指導と評価			
三つの柱に基づく観点	知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
コミュニケーションのポイント	正確な表現	やり取りの継続	積極的な態度
具体的な内容	○ それぞれの単元で、主な既習表現のうち、特に活用したい表現	○ すらすらとした返答 ○ 会話の関連内容での質問とその補足説明	○ 聞き取りやすい声 ○ アイコンタクト ○ 相づち等
コミュニケーションのポイントと、その具体的な内容を一緒に確認しよう!			

【図7 指導と評価の内容を生徒と共有】

学習指導要領解説において評価については、「話すこと[やり取り]」の活動中の言語使用について具体的にフィードバックしたり、活動後に生徒が自分の使用した英語について振り返り、場面に応じた適切な表現方法を確認する機会を与えたりすることが重要と示している。そこで、ルーブリックに基づくテストの評価表を作成し、生徒が課題意識をもって自己調整を重ねることで、積極的なパフォーマンスの発揮につながるようにした(図8)。作成に当たっては、即興性を意識した「話すこと[やり取り]」を、フィードバックによって簡単かつ具体的にチェックができる

あくせきじま英語教育推進 取組2			
即興性を意識した「話すこと(やり取り)」の振り返りカード			
場面設定	(例)ALTの先生とお互いの週末について話すやり取りを継続する。(1人1分程度)		
日付	観点	知識・技能	思考・判断・表現等
得点		(既習文法・語句を使った問答の様子)	主体的に学習に取り組む態度
()	できた項目(各1点)	① 正確な表現 ○ 一般動詞過去形の文の問答 ○ be動詞過去形の文の問答 ○ be going to やwillの文の問答	② やり取りの継続 (スラスラ答え、補足・質問をする様子)
アビールポイント↓1つ以上で1点		③ 正確な表現 ○ 流暢な表現 ○ (笑顔など)表情の良さ ○ 興味深い話の内容	④ 積極的な態度 ○ アイコンタクト ○ 聞き取りやすい声 ○ 相づちやジェスチャー等
/10点		⑤ 効果的なジェスチャー ○ 発音の良さ ○ 元気な大きな声 ○ その他()	[コメント]
アビールポイント↓1つ以上で1点		⑥ Perfect Eye Contact ○ Fluent Expression ○ Nice Smile ○ Interesting Talk	Good Gesture Good Pronunciation Big Voice ()
/10点			[Comment]
【振り返り】			
三つの柱でパターン化したスピーキングテストの評価表			

【図8 話すこと(やり取り)の振り返りカード】

ようにすることで日常の授業で実用的に使えるようにした。特に、1 分間のやり取りで生徒同士、生徒と JTE、生徒と ALT とローテーションで必ず対話をし、それぞれで「正確な表現」、「やり取りの継続」、「積極的な態度」の 3 項目を評価できるようにした。なお、この振り返りカードは、ポートフォリオ化して、得点の経過を振り返ることで、観点別評価を自分自身でも分析することができ、自分自身の成長を確認できるだけでなく、友人との比較や教師からの評価を通して、比較、改善することができるようにした。指導者としては、生徒一人一人の定着度や学級全体の状況を把握し、事後の指導に生かせるように工夫した。

4 研究の実際

(1) 活動 1: Keyword input と Small Talk

ア 活動の目的

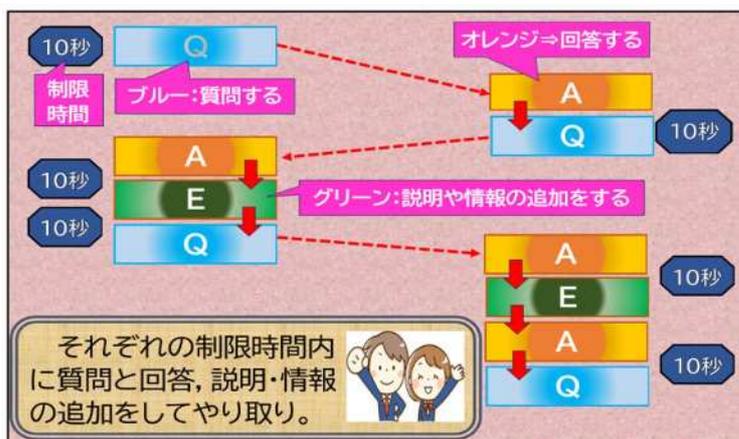
「即興で話すこと」に関して生徒意識調査を行ったところ、言語知識の不足から即興性のある英語表現活動をスムーズに行うのを難しく感じていることが分かった。そこで即興で話せるようになるための過程として、言語活動【図 9 即興で英語を話すための過程】に入る前に Keyword input の時間を設定した(図 9)。この設定により、第一段階として、「言いたいことを思い浮かべる」ことができ、第二段階で、「英語でどう言うか考える」思考プロセスに生徒自身が気づき、生徒自身が授業に積極的に参加し、課題解決に取り組むようになった。



【図 9 即興で英語を話すための過程】

イ 指導の方法と活動の実際

ペアで一人が場面設定を決め、キーワードを使った英文を言い、他方は相手が言う英文を聞く。聞き手の生徒は、発表する生徒の英文を聞いて、自分の言葉で言い換える活動を行った。十分な Keyword input の練習の後で、Small Talk へ活動をつなげた。Small Talk では、最初は 30 秒、次は 1 分と各自で時間を設定し、互いに会話を継続、発展させながら対話を行った(図 10)。活動相手や対話内容が同じにならないように工夫するため、生徒同士、JTE との対話、【図 10 Small Talk における会話の継続・発展の工夫】ALT との対話、生成 AI(Chat GPT)を用いた対話と 4 パターンの対話する相手を変えて言語活動を行った(写真 1)。



【図 10 Small Talk における会話の継続・発展の工夫】

また、日常での授業の取組に加えて、多様な生徒との関わりを増やすため、ZOOM や TV 会議システムを活用し、十島村 7 つの学校との英会話交流を行ったり(写真 2)、併設した小学校児童と共に全校生徒で英語を話したりする等、本校独自の英会話交流会(イングリッシュ・キャンプ)を設定し(写真 3)、即興で話す機会づくりを行った。この取組の成果として、即興性のある話す力だけでなく、読解力や精聴力を向上させる語彙力を増やすことにもつながった。英作文力については、Keyword input で覚えた語彙を Small Talk で使用したり、知りたい語彙を生徒たちが自ら調べたりして、毎日の日記を英語で記入したりするため、即興的な話す力が飛躍的に向上した(写真 4)。



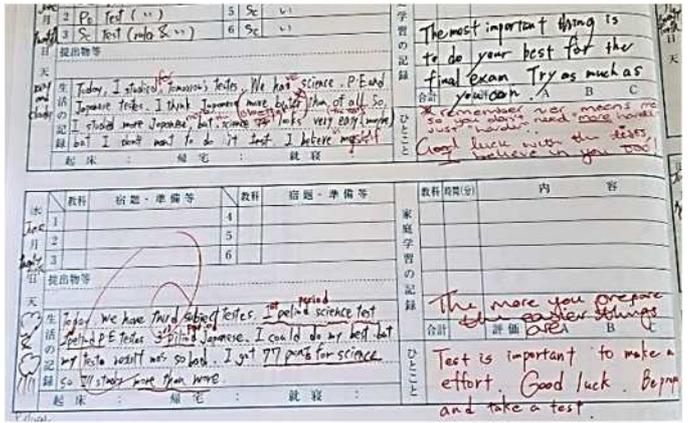
【写真 1 生成 AI(Chat GPT)との対話の様子】



【写真 2 TV 会議による対話】



【写真3 悪石島イングリッシュ・キャンプの様子】



【写真4 英語による生活の記録の記入】

Keyword input と Small Talk の2つの言語活動を、「話すこと[やり取り]」の場面設定(図6)を参考に学習指導要領の場面設定をもとに取り組んだ結果、生徒と当初、系統付けした自作教材の題材である8つの場面(日常生活、紹介、買い物、食事、電話での応答、旅行、道案内、郷土の紹介)以外のトピック(高校入試、模擬試験、海外文化、悩み相談、夕食の料理レシピ等)が話題に挙がり、Keyword input と Small Talk の幅がどんどん広がっていった。個別での繰り返し練習やペア練習を実施後に、自身の考えや意見を伝える活動を何度も行い、「話すこと[やり取り]」の振り返りカード(図8)を活用して、振り返りを行った。その際に、Skitの言語活動にもつながるように定型表現と構成の視点を作成して、生徒と共有した(図11)。

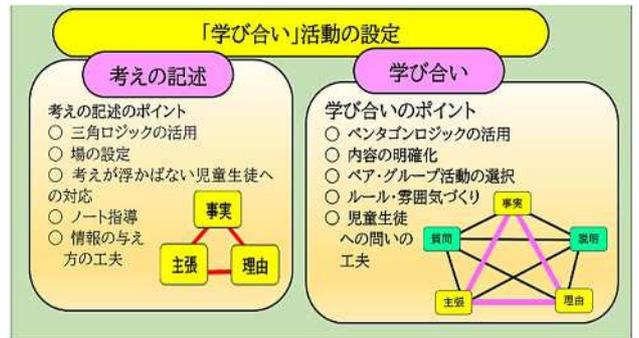
スピーチの形式	定型表現と構成の視点
導入	Hello, ~. ・トピック紹介
展開	・事実や特徴 ・具体例や理由
まとめ	・考えや感想 That's all. Thank you for listening.

【図11 定型表現と構成の視点】

(2) 活動2: Keyword input と Skit(Role play)

ア 活動の目的

活動1のSmall Talkと同じ学習過程の流れでSkit, Role playを行った。この言語活動は、生徒自身が主体的に相手を配慮しながら即興で話す「学び合い」の場を作るのに適している。生徒は、活動を通して多様な情報や考え、気持ちなどをやり取りすることによって、相手について知ったり、自分のことを知ってもらったりして、内容のやり取りをするコミュニケーションを楽しむことができる。CEFRと生徒の目指す姿を示したCan-Doリスト(図5)を生徒と確認して、さらにこの活動の意義を生徒と共有して、SkitやRole Playに取り組んだ(図12)。この言語活動は、限られた時間で、即興的に伝え合うことができ、正確さよりも流暢さに重点が置かれ、使用する言語材料も限定されない。よって、既習の文法事項や語彙などを使用できるように活性化したり、言いたくても言えない英文を、辞書を使用することなく、どう表現したら伝わるかチャレンジすることができる。



【図12 Role playを通じた学び合い活動の取組】

イ 指導の方法と活動の実際

言語活動を行う前に、モデル会話の場面とSkitの主な課題について、生徒と確認を行った(図13)。場面設定での伝える状況や条件については、即興でJTEとALTが場面設定を行ったり、AI(Chat GPT)に条件を伝え、状況を決めて言語活動を行う取組も実施した。

「話すこと(やり取り)」の場面設定をいかした Skit への取組の工夫	
Skit(例)	
Requirements	① All team members must participate equally.
※③の設定についてはAIを活用	② Be creative. Make it interesting. Have fun!
	③ (例) Must include -Explaining symptoms. Asking and answering questions.
モデル会話の場面と Skit の主な課題	
場面設定	状況と Skit の主な課題
1回目 病院で	(体調について)症状を言う
2回目 デパート	(欲しい物の描写)ほしい物について描写する
3回目 本屋	(本の注文・取り寄せ)本を買う/注文する
4回目 道	(位置や行き方)位置や行き方を聞く
5回目 レストラン	(注文と理由)雑談をして、本題に入る
6回目 電話	(物の描写)忘れ物について描写する
7回目 図書館	本を借りる/予約する
8回目 タクシー	位置や行き方を説明する

【図13 モデル会話の場面と Skit の主な課題】

さらに、教師が ALT や生徒とモデルとなる言語活動を行った上で、モデルと評価基準を示した(図 14)。どのような表現が、どのような点で英語コミュニケーションとして豊かであるか、内容が面白いと感じるか等、生徒と評価基準を共有して、豊かな話しぶりを追究した。

Skit 実施後の振り返りによる感想では、生徒が即興で話すテーマやトピックとなる英文を指定せず、生徒自身が選択し、どんな場面設定に変えてもよいことにしていたので、自由な友達との対話によって、会話の進展を楽しめるとの振り返りが見られた。

今年度の 4 月当初、即興で 30 秒も話すことのできなかつた生徒が、3 か月で 5 分間の即興的な Role play をすることができるようになった。即興的な話す力の評価は、後日行う ALT との一人ずつの面接で「表現の能力」を評価した。

【評価基準】		モデル会話の場面と Skit
場面設定		状況と Skit の主な課題
1 回目	病院で	(体調について)症状を言う
<i>Doctor</i> : What's the matter with you? <i>Student</i> : Well, I have a headache. <i>Doctor</i> : Really? When did your headache begin? <i>Student</i> : It began just a few minutes ago. <i>Doctor</i> : Did you do anything special this morning? <i>Student</i> : Yes, I ran to school this morning. <i>Doctor</i> : Why did you run to school? <i>Student</i> : Because I woke up late this morning. <i>Doctor</i> : Did you have breakfast? <i>Student</i> : Yes, I ate a lot for breakfast. <i>Doctor</i> : O.K. You should rest here for a minutes.		

【図 14 Skit のモデルと評価基準を生徒と共有】

(3) 活動 3: パフォーマンス評価

ア 活動の目的

生徒が ALT との自由な対話を楽しみつつも、即興的な話す力が身に付いているかを確認し、英語話者となるための見方・考え方を振り返ることがねらいである。また、英語で即興的に話すことに自信をつけさせたいという思いで言語活動を設定した。

イ 指導の方法と活動の実際

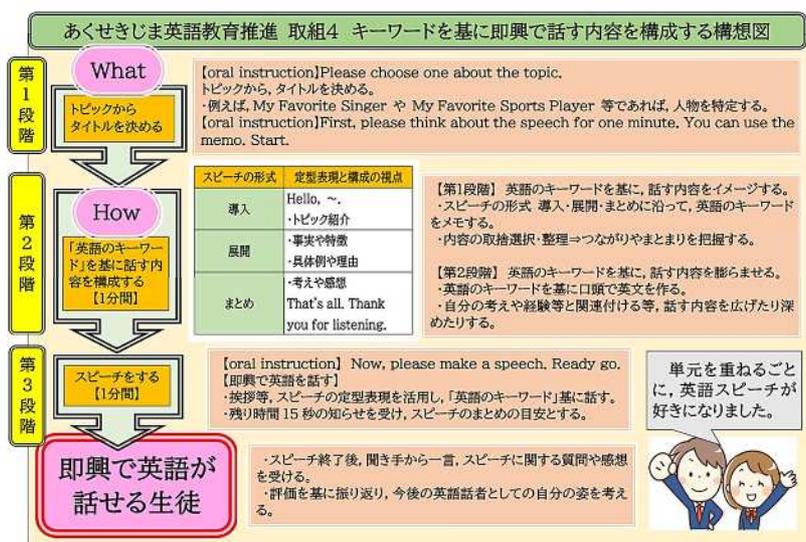
単元の到達目標として、一単元の終了時を軸としてパフォーマンス評価を行った。生徒は、順番に JTE, ALT の前に来て行う形で行った。12 月には、中学 1 年生のオーストラリア人留学生を迎えて、Small Talk や 1 対 1 でのコミュニケーションを取ることによってパフォーマンス評価につながる取組も実施した(写真 5)。



【写真 5 オーストラリア留学生と Small Talk】

円滑な活動実施のため、評価方法として、「話すこと [やり取り]」の振り返りカード(図 8)を面接評価シートとして使用することとした。この取組は、通常の授業の延長線上にパフォーマンス・テストがあることが分かり、安心してテストを受けられ、さらに見通しをもった活動につなげる工夫を行った(図 15)。Small Talk と同じように、“What are you going to do this weekend?”, “What food did you have for breakfast?”のような簡単な質疑応答からスタートして、トピック(基本的には 4 パターンを用意)から 1 つを選んで、5 分間を計って取り組んだ。

活動では、JTE や ALT との会話でもアイコンタクトを欠かさずに、リラックスして笑顔で会話を楽しむ姿が見られた。パフォーマンス評価のトピックが、それまでの Small Talk に関連する場面設定や事柄を扱ったことで、即興性のある面接試験ではあるが、生徒はコミュニケーションの楽しさを感じ、自信を付けることができた。パフォーマンス評価の前に、即興的な話す活動として、Keyword input や Small Talk, Skit(Role play)を通して何度も即



【図 15 パフォーマンス評価の流れを生徒と共有】

興的に「話すこと[やり取り]」に取り組んできているため、生徒は落ち着いて取り組むことができ、対話内容でも目標を十分達成することができた(図 16)。

即興で英語を話す資質・能力を育む取組を始めた初期段階では、CEFR で Pre-A1 から A1-1 の生徒にとっては、多くの英文を話すことが難しかった。しかし、即興的に「話すこと[やり取り]」の言語活動への取組を継続する中で、「話すことの内容や形式、構成」といった視点での向上が見られた。

パフォーマンス評価結果			
評価基準			%
継続・態度	A	アイコンタクトをしながら、相手と相づちや確認のための繰り返しをしながら、会話をしている。	95
	B	アイコンタクトをしながら、相手と相づちや、確認のための繰り返しや、どちらかをしながら会話をしている。	5
	C	相づちや確認のための繰り返しをして、会話に参加するのに練習が必要である。	0
正確	A	Will や be going to 等を用いて適切に聞き、予定や計画を伝えることが2回以上できている。	90
	B	Will や be going to を適切に用いて、予定や計画を伝えることが1回できている。	10
	C	Will や be going to を適切に用いて、予定や計画を伝える練習が必要である。	0

【図 16 パフォーマンス評価の結果】

5 研究の分析と考察

(1) 即興で「話す力[やり取り]」が高まったかを「話す内容」から分析した結果及び考察

即興で「話すこと[やり取り]」による判断基準として、振り返りカード(図 8)と「話す内容による」分析シートにより、オーストラリアからの留学生と全校生徒それぞれの 1 対 1 による Small Talk や Role play を授業の中で設定し、即興で「話すこと[やり取り]」による言語活動からの考察を行った(図 17)。

即興性を意識した「話すこと[やり取り]」の指導と評価に視点を当てた授業改善に取り組む以前は、「話す内容」について、事実や特徴とその具体例や理由を述べ、内容を膨らませて話していた生徒は全校生徒の 2 割であったが、取組の成果として、全校生徒が「話す内容」を意識して英語表現をしていた。その中で、「話す内容」に広がりや深まりがあった A 評価の生徒は 8 割であった。ここでは、「B 評価から A 評価に変化した生徒の発話内容」を示す(図 18)。この生徒は、年度当初の即興的な会話において部活に入部している友達について、事実に加えて部活の様子や、友達が練習している練習の様子、相手の趣味や自分との関連等を述べたりして、内容を膨らませていた。即興性を意識した「話すこと[やり取り]」に

「即興で「話す力(やり取り)」が高まったか」を考察		
「話す内容」による判断基準		指導と評価の一体化
評価	判断基準	
A	事実や特徴とその具体例や理由等を述べ、自分の考えや経験と関連付けながら、内容を膨らませて話している。	
B	事実や特徴とその具体例や理由等を述べ、内容を膨らませながら話している。	
C	事実や特徴の具体例や理由等を述べていない。	

【図 17 「話す内容」による判断基準】

年度当初	即興で話す力(内容)が高まったか	B評価からA評価に変化した生徒の発話内容	
言語活動への取組後	導入	He is my friend. He like sports. He likes video games too. He likes books.	【トピック紹介】 【事実】 【事実】 【具体例】 【考え】 【感想】 表現力が乏しく、言いたいことが表現できない姿
	展開	He is very cool. He is very funny.	【トピック紹介】 【事実】 【具体例】 内容の広がり 内容の深まり
	まとめ	He is very cool. He is very funny.	【考え・感想】 理由とともに 定型表現
	導入	Hello. My friend is ○○. ○○ is a member of badminton club. He practices Badminton very hard. He can also play video games. He is good at playing it. I can't play video games well.	【トピック紹介】 【事実】 【具体例】 内容の広がり 内容の深まり
	展開	He is cheerful and friendly. I like him very much.	【考え・感想】 理由とともに 定型表現
	まとめ	That's all. Thank you for listening. Goodbye.	定型表現

※赤い太字は Keyword input や生活の記録を通して学んだ語彙を示す

【図 18 CEFR Pre-A1 の生徒の変容】

視点をあてた授業改善に取り組む前と後を比較すると取組後には、事実や具体例、考えや感想に内容の広がりや深まりがあることが分かる。文法的な間違いや語彙の不足が時々見られるが、理解するには支障がない程度であった。これらのことから、Keyword input と Small Talk, Skit(Role play)をもとに、即興的な「話すこと[やり取り]」の言語活動を行ったことにより、「話す内容」も充実してきたと考えられる。

言葉を扱うことに特別な配慮を要する生徒への指導については、最初、Keyword input をもとにした英語表現の発信や理解が難しい場面が見られた。しかし、回を重ねるにつれて、変化が見られるようになった。振り返りでは、「前回よりも長く話せるようになった。長く話せると、話すことが楽しいと感じた。もっと頑張って英語を話せるようになりたい。」といった記述が見られるようになり、最終的に、英検 3 級(中学校 3 年生卒業程度)に挑戦し、資格を取得することができた。これは話す意欲が高まったことにより、即興で話す力を伸ばし、それが総合的な英語力向上につながったと推測される。会話の中身として驚いたことは、“bite the bullet”や“break a leg”, “Piece of cake”と言った英語表現が自然に生徒たちから聞かれるようになったことであった。

(2) 英語アンケートによる分析と考察

全校生徒に取った、英語に対する意識調査結果(令和5年12月9日実施)を以下に示す。

<p>【質問1】 英語は好きですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ とても好き (80%) ○ 好き (20%) <p>授業は全て英語で実施。楽しんでる姿。</p>	<p>【質問5】 英語を勉強するのは、英語を通してして「新しい事を知りたい」からですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ とてもそう思う (50%) ○ そう思う (30%) ○ どちらかというと思う (10%) ○ 全くそう思わない (10%)
<p>【質問2】 英語は得意ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ とてもそう思う (20%) ○ そう思う (40%) ○ どちらかというと思う (30%) ○ そう思わない (10%) <p>自己肯定感が上がらない生徒もいる。</p>	<p>【質問6】 今後、どんな学習をしたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スピーチ大会・ディベート大会 (30%) ○ イングリッシュキャンプ・英語村 (40%) ○ 海外留学 (90%) ○ 他教科を英語で学びたい (10%) ○ ネットを活用した海外との交流会 (15%) ○ 海外への修学旅行 (90%) ○ 学びたいことはない (0%)
<p>【質問3】 中学卒業時までに目指したい英検の級はどの級ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 英検1級 (20%) ○ 英検準1級 (40%) ○ 英検2級 (30%) ○ 英検準2級 (10%) ○ 英検3・4・5級 (0%) ○ 英検の目標なし (0%) <p>意欲・関心が高く、中学卒業までに、大学中級程度以上の資格取得を目指して学習している生徒が多い。</p>	<p>【質問7】 自宅での一日あたりの英語学習の平均時間はどのくらいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 30分未満 (20%) ○ 30分以上～1時間未満 (15%) ○ 1時間以上～1時間半未満 (25%) ○ 1時間半以上～2時間未満 (25%) ○ 2時間以上～3時間未満 (0%) ○ 3時間以上 (15%)
<p>【質問4】 英語を勉強するのは、「様々な面から物事が考えられるようになるため」ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ とてもそう思う (35%) ○ そう思う (35%) ○ どちらかというと思う (30%) 	<p>【質問8】 英語を勉強するのは、「他の国の方々と知り合いになれるから」ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ とてもそう思う (50%) ○ どちらかというと思う (40%) ○ 全くそう思わない (10%)

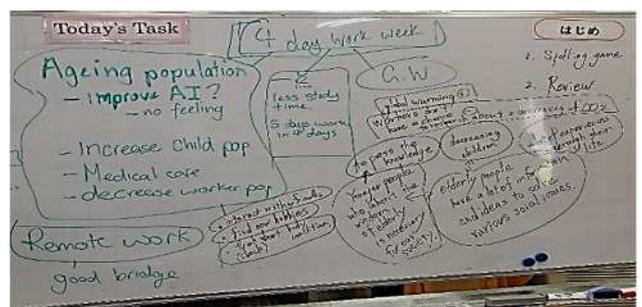
生徒への紙面アンケートの後、生徒一人一人の目標に合わせた個別英語計画年表を作成するため、面談式による調査も行った(図19)。もっと英語の授業で学びたいこととして、「英字新聞や英語の絵本、本などを読む(40%)」、「英文の速読術(50%)」、「ニュースやドラマ・映画・音楽を英語で見たり聴いたりする(55%)」、「ディベートを行う(30%)」という意見が聞かれた。要望に応える形で、世界史(イタリアの歴史)について、英語で授業した(写真6)。この取組は、生徒の興味・関心にもとづいた活動だったためか、授業後にイタリアの歴史について、自然と Small Talk が生まれていた。また、ディベートについては、“Aging population and AI”(少子高齢化社会とAI)という題材を設定し、Keyword input の後、即興で話す活動を行った(写真7)。この活動も生徒がわくわくして授業に参加していた。今後の授業改善に生かしていきたい。



【図19】 個別英語計画年表



【写真6】 留学生も含め、世界史を英語で学ぶ



【写真7】 ディベート:「少子高齢化社会とAI」

6 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- 即興性を意識した「話すこと[やり取り]」の授業改善に取り組む中で、Keyword input と Small Talk, Skit(Role play) の言語活動は即興的な「話すこと[やり取り]」の言語能力を高める上で有効であることが分かった。
- 年度当初から、生徒の振り返りシートは全て英語で行っている(図 20)。生徒のアンケートによると、英語での振り返りについて、「知識だけに終わらず、英語が使えるようになる。」「知識が身につけているのが分かる。」「振り返りが英語だから過去形や時制の復習をできる。」「新しく学んだことを思い出してまとめられる。」のような感想とともに、Keyword input と Small Talk, Skit(Role play) との関わりがあるという示唆をもらった。この気付きは、今後の研究につなげていきたい。
- Keyword input を基に話す内容を膨らませることができなかった生徒への手立てとして、事前にマッピング等を用いて内容を関連付ける方法を指導した上で「話すこと[やり取り]」の言語活動により、話す内容を広げたり、深めたりすることができるようになった。この取組には、「話すこと[やり取り]」の場面設定や、CEFR と生徒の目指す姿を示した Can-Do リストが効果的であると分かった。
- 全国学力・学習状況調査結果は、全問題 95%以上の通過率となった。資格試験を通した CEFR では、中学 3 年生は、大学中級程度(英準 1 級)、中学 2 年生は中学卒業程度(英検準 2 級程度)、中学 1 年生は大学中級程度(英検準 1 級)の取得及び英語力を身に付けることができた。

(2) 研究の課題

即興で話す力を高めるためには、学習段階に応じて系統的な指導を行う必要がある。今後は、小学校・高等学校だけでなく、海外留学・進学等を考慮した言語活動の指導計画を作成し、実践していきたい。

(3) 終わりに

今後も生徒が自由に即興で「話すこと[やり取り]」を楽しむ取組を続けたい。そのために、生徒が主体的に行うやり取りを広げたり、深めたりできるように、また、生徒同士が互いに学び合う環境を作り出せるように自作の授業改善シートや研究授業等を通して授業改善に取り組みたい(図 21)。

毎時間の振り返り

□評価はA(80%)・B・C(60%)の3段階で評価します。

日	授業準備より早く完成	理解度	振り返り
1	A	A	① 分かったこと、自分の思い、文の読み取り、難ん定着語を覚える、文の読み取りに納得したこと、 ② できるようになったこと、毎日に生かせること、③ 毎時やまとり知りたいこと、など (記入例) ④ 「～するつもりだ」と先生を伝える表現が理解できた。⑤ しかし、ペアでの対話が不十分だったので、次回は相手の話をうなずいて聞くなどしたい。
2	A	A	① The vocabulary that I study for Eiken can use in the class and it is fun for me. ② Today I did a interview test and I was nervous but I can tell my thinking. (idea and opinions) ③ I could know about the Eiken listening was heard. Then I was expected. ④ I want to study more Eiken listening and speaking tests.
3	A	A	① Today I know that the pre-1 Eiken test is hard so I will read some English newspapers. ② I could understand the p.p. was only (p.p.) ③ I want to do the Eiken listening test but I need to study new English word to pass the Eiken test. ④ I could learn new word by writing English text book.

□ 整えて書く。(主語・述語)
□ 文の終わりを揃える。
(～だ、～である) (～です、～ます)

追進(疑問) 評価(内容(分かった)) 評価(結果) 評価(方法・活用(できた・やり取り))

このUnitを通して、できるようになったこと、わかったこと、十分理解できなかったところ、観点などを書きましょう。(例) ○○できるようになったが、□□は△△したい。

【図 20 英語による振り返りを実践】

視点	No.	内容
学校の目標 自らの目標に向かい進んでいくことを認め合える調和の取れた心豊かな児童生徒の育成	1	信頼関係に基づく学級づくり(肯定的・共感的な人間関係づくり)を進めている。
	2	学級に学習規律(時間、挨拶、話し方、聞き方、学習用具等)を浸透させている。
	3	本単元・題材や本時を通して、児童生徒が「何ができるようになるか」について確認している。
	4	教材・教具を工夫している。(教師間・異校種間等で連携を図り、指導の系統及び安全面を踏まえた工夫をしている。)
	5	本単元・題材や本時で活用できる取組事項と、その定着状況を把握している。(全国・県学調、学校のし〜と、学校アンケート、家庭学習等)
	6	「日常生活場面からの問題提示」(書きや疑問、感動を与える導入)「取組事項との関連(習得した知識・技能の活用)に気づく導入」等により学習意欲を喚起している。
	7	本時の目標(あて・わらい)を明確にし、児童生徒が「追究したい、解決したい」という必要感をもてる学習課題を設定している。(板書等で分かりやすく提示している。)
	8	「どのように学ぶか」という学習の見通しをもたせている。
	9	体験的・問題解決的な学習活動を設定している。
	10	自力解決の時間を適切に設定し、児童生徒に自分の考えをもたせている。
	11	言語活動の充実(話し合い、発表、プレゼンテーション、討論、論述、レポート作成等)を図っている。
	12	目的に応じたペア学習、グループ学習等、児童生徒の主体的・対話的な学びのための学習形態を設定している。(その目的や行い方を丁寧に指導している。)
	13	児童生徒の思考を促す発問や理解を深める発問を工夫している。
	14	端的で分かりやすい指示を心掛け、板書とリンクさせてノート指導を行っている。(本時の学習の流れ、思考の流れが確認できる板書を工夫している。)
	15	学習活動を振り返る場を設定し、児童生徒に反省を促し、その伸びを見取っている。また、今後につながる振り返りを全体で共有している。
	16	児童生徒が本単元・題材や本時を通して働かせてきた「見方・考え方」をもとに、新たな課題を見付けたり、深い学びにつなげたりしている。
	17	家庭で復習できるようなポイントを示したり、今後の学習活動の見通しをもたせたりしている。
	18	単元・題材の評価規準を設定し、各観点のバランスのとれた評価計画を作成し、教師の指導改善及び児童生徒の学習改善につなげている。
	19	本時の評価規準に準拠した指導と評価を繰り返している。
	20	評価結果の基調(補助簿の活用)から児童生徒の学習状況を把握し、次時以降の授業改善に生かすとともに、個別の指導・支援を明確にしている。

指導過程や授業形態等の工夫・改善

視点① 導入の工夫
端的な動機付けによる学習課題の明確化、学習意欲の向上

視点② 展開の工夫
学習課題の追究、解決に向けた主体的・対話的な学習活動

視点③ 終末の工夫
本時の学びの振り返りと身に付けさせるべき力の定着

指導と評価の一体化
評価に関する工夫・改善

【図 21 英語授業力改善シート】

引用・参考文献

- ・千菊基司(2019)『即興的に話す交渉力を高める！中学校英語スピーキング活動アイデア&ワーク』 明治書房
- ・文部科学省(2018)『中学校学習指導要領』
- ・英語教育編集部(2018)『英語教育 2018年12月号』 大修館書店
- ・上山晋平(2018)『はじめてでもすぐ実践できる！中学・高校 英語スピーキング指導』 学陽書房
- ・投野由紀夫(2018)『CEFRに基づく「やり取り」と「発表」の違い 英語教育 1月号』 大修館書店
- ・小松原唯弘(2013)「英語の授業を楽しくする 10 分間の帯活動」 三省堂
- ・東仁美(2003)『アウトプットを促進させる高学年でのスキット活動』 聖学院大学論叢